



日本の川の名の由来を教えてください。

日本で最大の流域面積をもつ大河、利根川はなぜ「利根川」と呼ばれるようになったのでしょうか。その由来にはいくつかの説が見られます。

第一は、利根という地域から流れ出ている川という説であり、その「利根」（古書では止禰など）の語源にもさまざまな説があります。古書では「刀禰川」などの文字も使われていますが、『江戸名所図絵』などによると、「刀禰とは、物の冠であることをほめたたえる言葉であるので、大河をほめて刀禰川と呼んだのであろう」と説明されています。このほか、「ト・ナイ（沼・川）」、「ト・ネ・ベツ（湖の・ような・川）」、「トン・ナイ（大・川）」、「タンネ（長い）」などのアイヌ語起源説もあります。

なお、利根川は「坂東太郎」の愛称をもっています。これは、九州一の大川、筑後川を表わす「筑紫次郎」、四国一の大川、吉野川を表わす「四国三郎」とともに、日本古来の兄弟名から、明治時代に呼ばれるようになったと考えられています。では、なぜこの3つの川が、太郎、次郎、三郎の順で呼ばれたのでしょうか。それは、本州、九州、四国と面積の大きい順に並べていき、それぞれの最も大きい川を選び出したためであり、当時、北海道はまだ開発が進んでいなかったため、石狩川はこの対象から除外されたものと考えられています。

清流で名高い四国・高知の四万十川にも、数多くの川（四万十の川）が合流している川とする説や、アイヌ語の「シ・マムト（非常に・美しい）」が変化したものとする説などが見られます。江戸時代には総称としてこの名前が用いられていたようですが、上流部では松葉川、下流部では渡川などの呼び方もありました。大正時代以降、「河川法」の呼び方としては渡川

日本の河川三兄弟



が正式名称とされていましたが、四万十川のほうがあまりにも有名になってしまったことから、平成6(1994)年に法律上の名前も四万十川に改められたという珍しい例でもあります。

このように、川の名前の由来にはさまざまな説が見られ、同じ川であっても、時代や地域によって異なった名前が用いられることがあります。このほか、川底が砂礫であれば砂川、苔でつるつるすれば滑川、冷たい川であれば寒川や氷川、温泉が流れている川は湯川や温川、平らな土地を流れる川は平川など、川の特徴をそのまま表わした名前や、宮川、神田川、加茂川など、神社、仏閣などに由来した名前も数多く見られます。

石狩川、名取川、思川、姫川、長良川など、美しい字や読み方をもつ川もあちこちに見られます。

川の名前は単なる記号ではなく、その川や流域の特徴、そこに住んでいる人々の生活や歴史、文化、信仰なども深いかわりをもち、それらの姿を映しだしているともいえます。

川と出会ったら、その川の名前の由来を調べたり、想像したりして、大昔から流れ続けてきた川の姿や、そこに住む人々の暮らしを思い描いてみるのも、興味深いのではないのでしょうか。